

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292400058	
法人名	社会福祉法人中泊町社会福祉協議会	
事業所名	グループホームしおさい	
所在地	青森県北津軽郡中泊町小泊朝間1番地25	
自己評価作成日	H23年10月27日	評価結果市町村受理日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社団法人青森県老人福祉協会	
所在地	〒030-0822 青森県青森市中央3丁目20番30号 県民福祉プラザ3階	
訪問調査日	平成23年11月16日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>・当ホームはとても立地条件、周辺の環境にも恵まれています。ホームの1階が町直営の診療所であり、通院における心身の負担が少なく、とても助かっております。徒歩2分くらいのところに消防署、向かいには小学校グラウンド、商店。隣には弘南バス案内所、同法人の経営の通所、訪問、支援ハウス事業所があります。緊急災害時におけるの協力が得られる環境にあります。海、山に囲まれた自然豊かな地域です。四季を感じていただける工夫をし、五感への働きがけに力を入れ、生き生きと生活して頂けたらと職員一同心を一つに、笑顔で接しております。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>開設されてから2年目を向え、職員は更なるサービス向上のため、積極的に研修や勉強会に取り組んでいる。また、入居者の状況の記録、介護計画も誰もが見てわかるように記録がされている。入居者の方々も、ゆとりした日常生活を送られており、食事の時間は笑いが耐えない雰囲気があり、職員のさりげない声かけにより、安心した生活を送られている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設から2年目となりました。開設時は職員全員で作成されたものであり、事業所の状況の変化に左右されないように、機会あるごとに話し、意識付けを行っております。「支えあう笑顔のある生活を目指して」。	開設時に職員全員で考え作成した理念「笑顔を大切に」を掲げ、毎月の会議で職員間で共有されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事等の情報収集に努め、可能な限り参加しております。また、同法人経営のデイとの交流も行っております。天気の良い日は散歩や玄関先で日向ぼっこします。入居者の笑顔が見られ嬉しく思っています。	ホーム内でレク担当を設け、地域のイベントや行事について情報収集し出かけている。また、小学校との交流や中学校の職場体験も受け入れしており、交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学生の職場体験も行われております。また、月1回、診療所で開催される地域連携会への参加にて意識付けに努めています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	災害時の対応について、活発な意見を頂いております。入居者の安全は勿論、夜勤者の緊急時対応についても報告しております。委員数の追加の意見も伺い、安心、安全な生活支援に努めております。	運営推進会議は定期的開催されている。入居者の生活状況の報告や災害時の対応について等話し合いをし、参加メンバーからも意見を出していただきサービス向上に努めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	相談回数は少ないと思いますが、役場へ出向いたとき、電話などで相談しています。また、運営推進会議で意見を頂きサービスの質の向上に努めております。	入居者の生活状況の報告や事故報告に関しての相談を担当ケアマネや保健師へ相談し、情報を共有しながら協力関係を築き取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ホームが2階であり、非常階段を含め階段が3箇所ですが、日中は鍵をかけずしております。見当識障害のある方の行動は見守り、声をかけながら転倒防止に努めております。職員は「相手を思いやる、優しい気持ちで接しております」。身体拘束への理解をしております。	身体拘束に関しての勉強会や研修へ参加し、抑制しない対応に取り組んでいる。ホームが2階であるため、夜間は玄関に鍵を掛けて対応しているが、日中は鍵を掛けず、見守りや職員間で横のつながりを持ち声を掛け合い対応している。徘徊者に関しては抑制せず、付き添うように一緒に行動をするケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会あるごとに、虐待については説明し周知徹底を図っています。指導の仕方では、職員への虐待とも取られかねないとの経験もしましたので職員への配慮も必要と思っています。虐待防止は徹底したいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在の所、成年後見制度等の活用は有りませんが、常に念頭に置き必要性を見極め対応したいと思っています。金銭管理においては、管理者が行っておりますが、詳細については職員への周知も図っております。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には、出来るだけ時間をとって説明をさせて頂いております。介護報酬の改正などで利用料金の変更などがある場合は、随時説明させていただくようにしております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様には、日常会話の中から意見を伺うようにしております。ご家族様からは、少なくとも月1回は来所して下さるので、状況報告しながら意見を伺っております。意見等は緊急な場合は、日々の申し送りにて行い、会議においても周知をしています。	入居者の方との日々の会話や支援の中から本人の希望や悩みを確認し、楽しい生活が送れるような支援を心がけている。また、家族の面会時には家族から意見等を聞くようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見等を上手く引き出せず、不安になっていると思うことがある。年1回の施設長の個人面談は行われており、このたびも、職員の要望等聞いて頂ける機会を頂きました。良いサービス提供が出来るためには、必要と思っています。	1年に1回、職員全員と施設長との面談を設け、職員からの意見・要望を確認している。意見・要望に関して出来る事は管理者と話し合いながら取り入れ、運営に反映されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	改善の必要や要望等においては、管理者が必要に応じて、事務局や上司に報告にて行っています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、研修にて知識習得をするようにと理解を示しており、職員も機会を与えて頂けると喜んでおります。研修報告は、会議で発表し回覧も行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にあるGH事業所9箇所との勉強会が4ヶ月に1回開催されており、参加しております。GH協会開催の研修にも参加をし勉強させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時には、ご本人、ご家族との面談のための自宅訪問やホーム見学しながらの面談にて状況把握を行っています。不安や要望などを傾聴により把握するようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人様の前では話しづらいようなことは、電話や来所にて伺えるようにしています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、ご本人、ご家族の思い、状況等を確認し何を望んでいるかを見極めたいと思います。その時の状況にあわせた対応を心がけてたいと思います。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	開設から1年が経過し、入居者様もホームに馴染んでこられ、遠慮なく過ごされている様子も見られます。職員は喜怒哀楽の部分を受け入れるようになりたいと、謙虚な気持ちをもち関係作りに努めております。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様来訪時に、ご本人様の状況を報告し、ご本人を支えてゆくための協力関係が築けるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の支援にて毎月の参拝や行きつけの美容院への外出が継続されています。面会も気兼ねなくあり、入居前に利用されていたデイとの交流も継続できるように支援しております。地域のイベントにも参加し交流の継続支援に励んでいます。	隣接されているデイサービスの利用者との交流もあり、1階には診療所もあるため、近所の方との交流は継続されている。また以前からの行きつけの理髪店を利用できるよう支援されている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者一人ひとりの性格、周辺症状の把握をし、職員への周知徹底を図っています。職員が調整役となり、利用者同士の関係が上手く行くようにしています。時には、座席の変更や個別に話を聞くように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	昨年度は1名の方が自宅に帰られましたので、在宅担当ケアマネと情報交換を行いました。今年度は該当者は有りませんが、退所後も気軽に訪問ができたと思います。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、言葉、表情などからその真意を把握するようにしている。職員は相手の気持ちになり、やさしい言葉がけを目指している。困難な人の場合にも、必ず、意向と思われる言葉が聞かれるので傾聴を心がけております。	入居前のアセスメントの実施と普段から入居者本人の意向を引き出せるように心がけ、職員全員で思いを共有している。また、うまく意向を伝えられない入居者からは、表情の観察をしながら、思いを引き出すように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初回面談において情報把握に努めますが、全て知ることはできないと思っています。日々の暮らしの中で新たに知ることが多いと思っています。傾聴に努め、安心して暮らせる支援にしたいと思っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに1日の生活リズム、心身状態については常に申し送りや記録にて周知徹底を図っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様にも担当者会議に出席して頂き意向を尋ねます。月一回のホーム会議にて、その旨伝えながら計画作成の意見を伺うようにしています。職員も未だ計画における積極的な意見は出せないようですが昨年よりは活発になっています。	カンファレンス、モニタリング、評価を定期的に行い、家族からの意見・要望・情報も基に個々の計画書に反映している。また、職員全員で共有し日々のケアに取り組んでいる。	担当者会議に参加出来なかった職員へも内容を周知するために、会議録を確認してもらう等の取り組みが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のファイルを用意し健康管理面、日々の生活状況の記録を行い、職員間の情報共有ができるようにしています。また、計画作成者による計画やモニタリングなども個別ファイルに入れて周知を図っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、家族の状況に応じて、通院や送迎の支援など可能な限り行っています。また、遠方より面会に来た家族には、食事提供も行うことがあります。可能な限り柔軟な対応をしたいと思っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	同法人が経営するデイサービスとの合同の夕涼み会、地域の夏祭り、イベントなどに参加しています。夕涼み会ではカラオケ大会に出られた方もおられ、楽しんでいました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人、ご家族が希望するかかりつけ医への受診支援を継続しています。緊急時等においては家族へ連絡し動向していただいております。	以前からのかかりつけ医が1階の診療所だった入居者も多く、継続的に支援されている。入居時に本人と家族へ説明をし、意向の確認をしている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の心身の変化においては申し送り等にて行い、随時受診支援を行っております。通院記録やケース記録にも記載しております。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、ご家族との情報交換を行い、病院との連携に力を注いでおります。今回、入院となった方がおられましたがあまりにも早い退院で再入院されました。安心して治療が受けられるよう、ご本人様には面会時声掛けをし、また、ホームに戻れるようにと励ましています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期における事例はないのですが、これからは、見直しが必要と考えております。契約時には、できないこと、できることの説明を行い、他施設の説明も行うようにしています。当ホームは診療所が1回にあり、地域の方々には心強く思っているようです。	入居時に重要事項説明書を基に家族へ重度化や終末に関して説明をし承諾を得ている。緊急時には医師と連携を取りながら支援をしている。	1階にある診療所の医師とも連携が取れる体制があり、重度化や終末期のケアについて家族と相談しながら取り組んでいく姿勢があるため、今後の取り組みに期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	昨年に引き続き、応急手当講習会に参加し、全職員が研修を受けております。緊急時には戸惑うこともあると思いますが、機会あるごとに勇気を出し対応に当たるようにと周知しております。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練は実施して行きましたが、今回の大地震により再度避難場所などの検討が必要となっています。運営推進会議で検討したり、消防署にホームの避難口について相談し、アドバイスを頂きました。地域との協力体制整備の強化に望んでいます。	日中の避難訓練を年に2回実施され、今月は夜間を想定した避難訓練も行う予定である。消防署からアドバイスをいただき、ホーム独自のマニュアルも作成している。	地域の消防団や地域住民の協力体制を築けるよう期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格も把握し、援助が必要なきも相手の気持ちを考え、さりげない、やさしい口調でケアすることを心がけております。当ホームでは、常勤、非常勤関係なく全員が気をつけるようにしております。	入居者への声かけや排泄時の対応には職員全員で心がけ、ホームの理念でもある「笑顔を大切に」をモットーに、入居者一人ひとりを尊重した対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活から、その方の好み、嫌がることの把握に努め、自己決定ができるよう心がけています。外出やレクなどへの参加についても、押し付けず意向を伺い行っています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはありますが、その時の本人の体調や気持ちを尊重し、一人ひとりのペースに合わせた対応を心がけています。近場で、山菜取りや予定外の栗拾いなども参加できる方は行いました。入居者は山などがとても好きようです。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には入居者が決めておりますが、ちくはぐさや季節に合わないものはさりげなくアドバイスをします。縮びがあれば直しています。整髪はホームに来ていただき、希望にあわせたカット、毛染めをして頂いております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備、片付けの出来る方には行っていただきます。地域の食材を活かした食事提供や話題で楽しんで頂けたらと1年半行ったのですが、食材調達に困難で、今年、9月より食材を配達してくれる業者を利用しております。職員の負担軽減、入居者もメニューを喜んでます。	入居者の状況に合わせて、準備や後片付けなどできる部分は一緒に行っている。また、職員と一緒に食事を摂り、和やかに食事をされている。入居者の嗜好や希望を取り入れ、食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者利用により、カロリー計算された献立となっておりとても良いと思っています。摂取量においても、チェックしています。状態に合わせ、トロミうあ刻み食なども行っています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は必ず声掛けをし、洗面所にて口腔ケアを行っています。入れ歯が合わず、歯茎が痛んだりする方がいますので観察しています。現時点では、全員が洗面所にて行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表により、排泄パターンをチェックしております。安心して排泄ができるように、見当式障害のある方にはさりげなく声をかけ誘導しています。尿路感染症を起こしやすい方がおり、毎晩、陰部洗浄等にて清潔保持ができるようにしています。	入居者の状況の変化に気付き、職員間で情報の共有をしながら、入居者の状況にあった排泄用具の変更をしたり、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認し、下剤投与、看護師による浣腸を行うことがあります。毎日のラジオ体操、歩行運動や食事、水分、食物繊維の摂取等の工夫もしますが、それでもだめなときは医師への相談も行います。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	入浴日は週2回となっております。ホーム側の都合に合わせて行うようになります。昨年度は、同法人が経営するデイを利用することもあったのですが、入居者が大義がり継続できませんでした。順番等は変えながら行っています。	開設時にデイサービスの温泉を利用していたが、現在はホーム内での入浴を週2回実施している。温泉への入浴は希望があればいつでも対応が出来る体制がある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	常に入居者の状態観察を行い、なぜ、眠れないのかを検討しています。日中の活動状況も視野に入れながら、傾聴にて安心して眠っていただけるように心がけています。眠剤服用されている方は、日中への影響がないか観察しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は個別ケース記録に入れて、いつでもみれるようにしています。受診後は必ず、申し送りを行い周知徹底を図っています。服薬投与時は職員2人以上で確認し、確実に服薬するのを見届けています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々の暮らしの中でできること、できないことの把握をし、できることをお願いし、お礼の言葉を伝えます。入居者は、山菜処理がとても上手で、生き生きとなりますので、職員は近くの山から山菜を取ってきては皆で大騒ぎしながら行っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物よりは、畑や山の話が盛り上がっています。わらび取り、栗拾い、サクラボ狩りは本当に嬉しそうです。天気の良い日は、いつでも出かけられる支援を心がけております。買い物は職員が付き添い行きます。	入居者から要望があればいつでも対応は出来る体制であり、また日頃からホーム付近の散歩を行い支援されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	少額でもお金を持っていることの安心感を感じ取ることがあります。事業所で管理している方でも支払うことの促しを行います。家族の理解も求めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は遠慮なく使えるようにしています。今年も、年賀状を出せるよう、工夫する予定です。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じて頂けるようにホール、廊下、食堂などの飾り付けを工夫しています。入居者と一緒に作品作りも行っています。トイレは随時掃除し、気持ち良く使っていただけたらと気をつけています。浴室は不便さがありますが、特浴が必要な時は、デイの方で入浴介助を行います。	共用空間は清潔感があり、また、入居者が作成した作品を飾ったり、季節にあった装飾をするなど、家庭的で居心地の良い空間となるよう工夫されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	日中は殆どの方が、ホールで過ごしていますので、ソファや畳も用意し、横になりたいかたは横になり、廊下には椅子を置き、どこでも、会話が楽しめるようにしています。入居者状況により椅子などの配置換えをすることもあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームは、元、入院室であり病院のイメージが強かったようです。2年目になり、大分イメージは変わったように思います。本人の部屋であることの意識付けに、行事で撮った写真を貼っています。	診療所の入院室を改造した居室になっているが、個々の状況に合わせた広さにし、自宅から使いなれた物を自由に持込んでいただいている。また、家族も一緒に宿泊できる体制もできている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレにはドアがないので「ノック」ができず、入居者間で気まずいことがありましたので、鈴を付け、職員の見守りにてトラブル防止を行っています。また、身体状況にあわせ、その都度、環境整備を心がけております。		